

**6月定例議会****県営住宅の優先入居など質す**

福岡県議会の6月定例議会が5月26日から6月11日までの日程で開かれ、高橋雅成議員は、一般質問で県営住宅の優先入居や高校生の不登校対策で県当局の姿勢をたどしました。

この中で、同議員は、県営住宅の入居に際し、ひとり親家庭や老人世帯、障害者世帯などの住宅困窮者に対し、「現在、県が採用している倍率優遇の拡大や優先入居策を実施してはどうか」と提案しました。また、入居希望者で落選を繰り返している人が優遇措置を受ける際に義務付けている落選通知のコピー提出について、「（県営住宅を管理する）住宅供給公社で把握可能で、（落選の確認は）行政サービスで対応すべき」と指摘しました。

麻生知事は、倍率優遇の拡大については消極的でしたが、落選通知のコピー義務付けについて「写し書きがない場合は、いつ落選したかぐらいは書いてもらい、条件を緩和していく」と答えました。

**高校生の不登校対策
在宅学習にも単位を**

また、高橋議員は、高校生の不登校対策として、インターネットを活用した自宅学習でも卒業に必要な単位を認める特区事業を福岡県として取り組むべきだと訴えました。森山教育長は「不登校対策として有効な手段であり、国の動向を踏まえて対応したい」などと答えました。

なお、この質問に当たり高橋議員は、既に特区事業として在宅での学習を単位として認め

ている北九州市八幡西区の仰星学園高等学校を事前に調査。同校の徳重光会長らから不登校対策について話を伺いました。



仰星学園高校の実績などを聞く高橋議員

産廃埋設で視察

高橋議員ら県議会厚生労働環境委員会は6月9日、県が前原市で整備する前原IC南地区リサーチパーク用地を視察しました。同用地には産業廃棄物が不法に埋め立てられているとみられ、基準値を超えるヒ素などが検出されたため、事業が中断しています。





遊歩道「さくらロード」が開通 小学生の7年前の“夢”実る

福岡市博多区那珂の御笠川左岸に、この春、「弥生さくらロード」がお目見えしました。同遊歩道の整備は、7年前の小学生の“夢”を受け継いだ住民の運動が実ったもの。公明党福岡市議団の石田正明議員、同福岡県議団の高橋雅成議員が、運動をバックアップしてきました。

福岡市が事業費約3200万円を掛け、2カ年計画で整備した「弥生さくらロード」は幅6メートル、延長230メートル。鮮やかにカラー舗装された遊歩道沿いには、純白のかれんな花を咲かせたオオシマザクラ13本が春風にそよぎ、7基の照明灯と3基のベンチが等間隔で設置されています。



れています。

遊歩道整備のきっかけは2001年、市立弥生小学校の3、4年生を対象に行われた御笠川での体験型環境授業。水辺の自然を楽し

む子どもたちの心に芽生えた夢が、「子どもから大人まで楽しめる親水性豊かな遊歩道」整備でした。その夢は、保護者や住民に引き継がれ、やがて地域挙げての運動に。以後、弥生校区自治協議会が中心となり、県、市に早期整備の要請を繰り返していました。

藤木会長から、こうした経緯を聞いた石田市議は高橋県議と連携し、市や県の担当部局に足を運んでは「子どもたちの夢をかなえてほしい」と要請。市が06年から整備に取り掛かっていました。

研修医に人気の沖縄・中部病院

公明党福岡県議団の高橋雅成、浜崎達也、新開昌彦、大城節子の4議員は、沖縄県うるま市の県立中部病院を訪れ、同病院の医師臨床研修制度を視察しました。

医学部卒業生は全国の臨床研修病院の中から好きな場所を選び研修を受けます。地域の医療機関に多くの卒業生が研修に来れば、地域の医療を担う医師が定着することにつながります。研修医に人気がある沖縄の実情を調査しました。



たかはし雅成のホームページ <http://www.m-takahashi.net>